7/20 毎日

「気軽に」認知症カフェ

介護事業者と飲食店コラボ

越前市にオープン

予防に取り組み
サポーター養成

民間の介護事業所とカフェがコラボした県内初の認知症カフェが十九日、越前市芝原五丁目のコメダ珈琲店武生店で始まった。「Komeda×Kirameki夢カフェ」の名称で月一回開き、認知症の予防や知識の普及に努めていく。

市からの委託で運営する介護施設「県民せいきょう丹南きらめき」（同市家久町）によると、市内の介護施設や公民館での認知症カフェは、参加者の地域が限定的で、興味があっても介護施設に足を運ぶことに抵抗があるなどの課題があった。そこで、カフェに行くように誰もが気軽に利用できるよう市内の飲食店に協力を求め、コメダ珈琲店武生店が賛同した。

夢カフェは毎月第三木曜日の午前十時～正午に開き、きらめきのスタッフ二人が常駐。脳トレなど認知症予防に取り組み、認知症に関する講座や認知症サポーターの養成なども行う。認知症のお年寄りを世話する家族の相談にも応じる。誰でも利用でき予約は不要。飲食は有料。

マッチ棒を使った認知症予防の脳トレに挑戦するお年寄りら＝越前市のコメダ珈琲店武生店で

この日は、お年寄りらが同店のメニューを味わいながら、マッチ棒で作った図形を決まった本数だけ動かして指定した図柄にする脳トレなどを楽しんだ。八十六歳で現役の訪問販売員という同市家久町の田辺きみ子さんは「仕事もそうだが、外に出ることは刺激になる。マッチ棒のは難しかったが、知らない人と出会えるし、来月も来たい」と話した。

きらめき統括施設長の佐々木麻美さん(三五)は、「認知症や関心がある人の社会参加の場所が広がった。認知症は分かりにくい病気。地域に発信していきたい」と話し、コメダ珈琲店武生店の白崎智之店長は「くつろげる店舗を目指しており、取り組みを通じて実現できればと思う」と願った。

㊐県民せいきょう丹南きらめき＝0778（22）5001

（山内道朗）